

JCI 高温環境下におけるコンクリートの性能評価に関する研究委員会 TC154A
第3回全体委員会 議事録(案)

日 時 : 2015年10月28日(水) 15:00-18:00

場 所 : 2015/10/28 JCI 本部 第5会議室

参加者 : 兼松委員長、小澤副委員長、内田幹事、森田幹事、谷辺幹事、飯東委員、新委員、Kim 委員、池田委員、Bae 委員、春畑委員、Michael 委員、馬場委員、迫井委員、小林委員

配布資料 : 3-0 第3回全体委員会 議事次第

3-1 第2回全体委員会 議事録(案)

3-2 WG1 爆裂評価実験(案)

3-3 火害後のコンクリートの耐久性評価 WG(WG2) における共通実験(案)

3-4-1 WG2 アンケート結果

3-4-2 WG2 メンバー(案)

3-5 Rilem TC 検討内容概要

3-6 論文紹介 : IN-PLANE LOADED CONCRETE SLABS SUBJECTED TO FIRE: A NOVEL TEST SET-UP TO INVESTIGATE SPALLING

3-7 論文紹介 : Assessment on concrete susceptibility to fire spalling: A report on the state-of-the-art in testing procedures

3-8 話題提供 : Final Programme, IWCS-4th International Workshop on Concrete Spalling due to Fire Exposure, Leipzig, 08-09 October 2015

3-9 話題提供 : Role of CNU on Concrete Spalling Research

議 事 :

1. 前回議事録の確認(資料3-1)

- ・資料3-1に基づき、内田先生から前回議事録(案)について説明。
- ・異議なく承認。
- ・兼松委員長より、ホームページの立ち上げ必要との喚起(担当;ペ先生)、JCIのホームページ委員会との連携必要

2. WG1 実験計画について(資料3-2)

- ・資料3-2に基づき、WG1の爆裂評価試験(案)について森田委員から説明。
- ・加熱費用;全体委員会に支出をお願い。(兼松先生)
- ・供試体作製;全体委員会判断を持つ時間がないので、兼松先生、小澤先生で対応
- ・簡略化した全体委員会に提出する計画書の作成必要(事務局高田さん)
- ・実験を行う2月までに、WG2が化学的分析を行うか判断する必要(内田先生マター)

- ・リング試験体の本数は 6 → 8
- ・修正の上、承認。

3. キム委員から話題提供（資料 3-9）

・資料 3-9 に基づき、金委員から熱間圧縮試験とリング拘束供試体の実験について紹介があった。11 月初旬の供試体を作製し、養生後各種試験を実施予定である。

4. WG2 実験計画について（資料 3-3、資料 3-4-1、3-4-2）

- ・資料 3-3, 資料 3-4-1, 3-4-2 に基づき、WG-2 の共通試験について内田委員、春畑委員が説明
- ・委員の追加について承認
- ・加熱しながら物性を評価する方法はないか？以前、超音波伝搬速度測定を試みた例あるが評価が難しい。（金委員）
- ・この試験体での試験実績はあるか？（森田委員）、局所加熱実験については初めて（春畑委員）、加熱面積・方法については変更（先だつての WG2 でも議論、内田委員）
- ・モルタルでも実験、化学的分析の容易さを考慮（兼松委員長）
- ・骨材の分析も検討（兼松委員長）
- ・加熱温度については検討中（内田委員）
- ・試験体の作製は 11 月中を目標とする（内田委員）

4. Michael 委員から話題提供

- ・Michael 委員より下記の研究紹介がなされた。
- ・高温加熱によるペースト・モルタル・コンクリートの細孔構造変化および再水和による自己治癒
- ・X 線 CT スキャンによって、ひび割れが評価可能
- ・再水和の効果（ひび割れ閉塞や物質透過抵抗性の変化）、再水和メカニズム等で議論

6. 小澤先生からの話題提供

- ・資料 3-6、3-7、3-8 を用いて説明。
- ・RILEM 爆裂の国際会議と RILEMTCPSF の活動内容について紹介がなされた。
- ・RILEMTCPSF で紹介されたスモールテストピース爆裂試験方法の論文が紹介された。

次回の全体委員会

12 月 9 日（水）、2016 年 1 月 6 日（水）のいずれかで調整予定